

琉球大学学術リポジトリ

研究室紹介（琉球大学農学部土壌学・植物栄養学研究室）

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-04-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017102

琉球大学農学部土壌学・植物栄養学研究室

当研究室は、琉球大学農学部の5階建てビルディングの4階、ほぼ中央部の北面側に位置しています。本学が昭和47年5月の本土復帰により国立大学となった時、当研究室は農芸化学科を構成する1講座でした。現在は、平成3年4月の農学部改組により、生産環境学科の農地環境管理学講座を構成する1研究室です。

当研究室では、土壌の機能（はたらき、作用や能力）に関する物理性、化学性、コロイド性、植物栄養分の動態（移動や状態）並びに農地の土砂災害防止策などを究明し、亜熱帯の高温、強雨条件下における農業生産性の向上と地域環境保全に資するための研究や教育を行っています。

当研究室の構成員と、各人が取り組んでいる研究課題は次のとおりです。

大屋一弘教授の主な研究課題は、a) 酸性土壌の改良、b) ジャーガルの物理性改善、c) マングローブの養分吸収、d) 牧草の施肥反応、e) 土壌の有機物蓄積などであり、それらに関連して、1) 開墾地の土壌

理化学性の経年変化、2) 数種コンポストの肥効比較試験、3) ゲットウ堆肥の肥効試験、4) マングローブ土壌の理化学性、5) 土壌化学性に及ぼす海水の影響などが調べられています。

小生（助教授）の主な研究課題は、a) 沖縄の土壌特性とそれらの地力向上や生成環境、b) 土壌中の含鉄マンガンノジュールの特性と成因、c) 産業廃棄物の農業への有効利用化、d) 農用地開発地区における表土の水食要因とその水食防止法、e) マングローブ林内の堆積物のコロイド特性とその堆積機構などであり、それらに関連して、1) 堆積層序の異なる泥（灰）岩層断面中の土壌や堆積物の理化学性と粘土鉱物、2) 赤黄色土壌の荷電因子、3) 都市河川—比謝川—の水質浄化に及ぼす土壌コロイドの影響、4) 浄水汚泥、下水処理水や製糖副産物の農業への有効利用化、5) 造成土壌表土及び流亡土の理化学性とその差異などを調べています。

志茂守孝助手の主な研究課題は、a) 土壌リン酸に

関する研究、b) 琉球石灰岩上の赤黄色土に関する研究、c) サトウキビの養分吸収に関する研究、d) 有機資材を利用した腐葉土の試作などであり、それらに関連して、1) バガス、オガスを利用した腐葉土の試作、2) 各種土壌群の可給態リン酸の測定法とリン酸施用量、3) 土壌のリン酸保持量、4) 製糖副産物が土壌リン酸に及ぼす影響、5) 沖縄島南部における琉球石灰岩上の赤黄色土の理化学性などが調べられています。

当研究室における今後の研究課題も、ほぼ上記の課題に沿って進められると思われれます。しかしそれらに加えて、情報交流の場を通じて入手した課題についても取り組んでみたいと考えております。特に、現場における諸問題の情報入手には欠けているくらいが有りますので、関係者による気軽な情報交流の機会が持てることを希望しております。

(渡嘉敷 義 浩)